

特集

羽田空港沖合展開事業

第2期工事完成

羽田空港沖合展開事業

第2期工事の完成に当たって



運輸省大臣官房審議官 松浦道夫

このたび、羽田空港沖合展開事業の西側ターミナル施設が完成し供用の運びとなりましたことは、大変おめでたく、この事業を担当された方々と共に大いに喜びたいと思います。

この羽田沖展第2期計画の事業は、昭和62年の着工以来、6年の歳月を経ましたが、その間、事業に直接携った方々には、数々の困難に出合いながらも弛まざる努力を続け、この大事業を成し遂げられたわけであり、大変感謝しています。また、周辺地域の住民の皆様を始め、地方自治体、関係する諸官庁、事業者等の関係者の皆様には、深い御理解と絶大なる御協力を頂き厚く御礼申し上げます。

思えば、羽田空港は昭和6年にわが国初の国営民間飛行場として開設されて以来、日本の経済、社会の発展と共に増え続けた航空需要に支えられ、戦前、戦後を通じ一貫して拡張整備されて来ました。

沖合展開事業も騒音問題の解消と増大する航空需要に対応するため、昭和59年1月に着工し、完成した暁には開設当初53haで300mの滑走路1本であったものが、面積約1,100haと3,000mの滑走路2本、2,500mの滑走路1本を有する国内最大の空港に生まれ変わる予定です。特に今回の第2期計画では、国内線旅客ターミナルビルが全面的に移転し、これまで老朽化と狭隘化が進み、快適さを失ったターミナルビルが、見違えるように立派になり、雨に濡れ

ることもなくなり、非常に便利になります。また貨物施設、整備施設も拡充され飛躍的に空港機能が向上します。さらに空港へのアクセスは一般道路だけでなく高速道路で直接乗入れることが出来るほか、鉄道も延伸しモノレールと接続され交通手段が多様化しました。

現在のターミナル地区から新しいターミナル地区への移転は、一つの街の引越しであり、生まれ変わった羽田空港を訪れる年間4,000万人以上の航空旅客の方はきっとびっくりされるでしょう。

まさに、第2期の供用開始は、今日までの羽田空港の62年間の過去の歴史を新しく塗り変える一大出来事であり、後々まで記憶されるものと思います。

なお、本誌は、今回の第2期供用に合わせて、整備された施設の内容について、詳しくまとめられていますが、今回の読者だけでなく、いつの日か、羽田空港の沖展第2期計画がどのようなものであったかを知りたい方のためにもきっと参考になるでしょう。

21世紀はもう目前です。来る新世紀が日本の社会にとって素晴らしい時代になることを祈っております。沖合展開後の羽田空港がそれに少しでも役立つよう、今後も第3期計画の早期完成に向けて事業の推進に努力する積りです。

どうか、関係の皆様も、今まで同様これからも御支援をお願い申し上げます。